


CASBEE[®]新潟 | 評価結果 |




■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアル、CASBEE-新築(簡易版)2008年版
 ■使用評価ソフト: CASBEE新潟(v.1.1)

1. 建物概要

建物名称	新潟日報社新社屋	
建設地	中央区	
用途地域	商業地域、防火地域	
建物用途	事務所、物販店、工場、等	
竣工年	2013年1月 予定	
敷地面積	6,127.82 m ²	
建築面積	4,654.00 m ²	
延床面積	35,561.63 m ²	
階数	地上20F/地下1F	
構造	S造	
評価の段階	実施設計段階評価	
評価の実施日	2011年3月2日	

2. CASBEE新潟の評価結果

 S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★	S	$BEE = \frac{Q \text{ 建築物の環境品質}}{L \text{ 建築物の環境負荷低減性}} = \frac{72}{21} = 3.4$
--	---	--

3. 新潟市の重点項目の評価

重点項目	平均スコア	評価	項目	スコア
1. 長寿命化の取組み 誰もがずっと安心して生活するために	4.1		バリアフリー	4.1
			維持管理	4.1
			更新性	4.1
2. 地震への取組み かけがえのない人命、財産、思い出を守るために	3.7		耐震・免震	3.7
			信頼性	3.7
3. 大雨への取組み 大雨につよいまちづくりのために	3.6		雨水排水負荷低減	3.6
4. 自然エネルギー利用の取組み 地球温暖化対策のために	4.3		建物の熱負荷抑制	4.5
			自然エネルギー利用	4.0
5. 資源循環の取組み 持続可能な循環型社会づくりのために	3.7		節水	3.7
			リサイクル材の使用	3.6
			再利用可能性向上	3.6
6. 水と緑を活かす取組み 豊かな田園空間を次世代に引き継ぐために	2.8		生物環境の保全・創出	2.0
			敷地内温熱環境の向上	3.5
7. 新潟のまちなみへの取組み 地域の魅力を伝承・創造していくために	3.8		まちなみ・景観への配慮	4.0
			地域性への配慮、快適性の向上	3.5

4. 新潟市の重点項目の配慮事項

1. 長寿命化の取組み	: 内装材、外装材ともに防汚性に優れた建材を使用し、清掃にも配慮した計画としている。
2. 地震への取組み	: 免震装置の採用による地震の対策や、災害時における機能維持が可能となるように計画している。
3. 大雨への取組み	: 指導基準を満たす雨水貯留槽を確保している。
4. 自然エネルギーの取組み	: 太陽光発電設備、自然通風システムを採用している。
5. 資源循環の取組み	: 節水器具の採用、リサイクル建材の採用、及び乾式工法により改修、解体時の分別に配慮している。
6. 水と緑を活かす取組み	: 適度な緑地や舗装範囲の縮小等
7. 新潟のまちなみへの取組み	: 北前船をイメージした外観により、まちのシンボルとなるような建物となっている。また、開放的なエントランスホールや展示ホール等地域住民に対して開放的な空間を計画している。

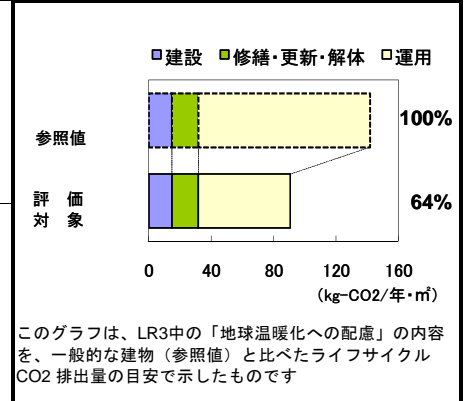
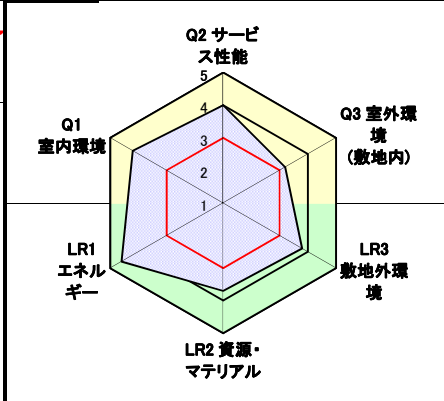
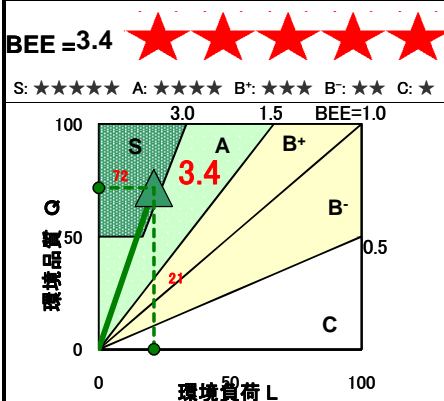
■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

CASBEE®新潟

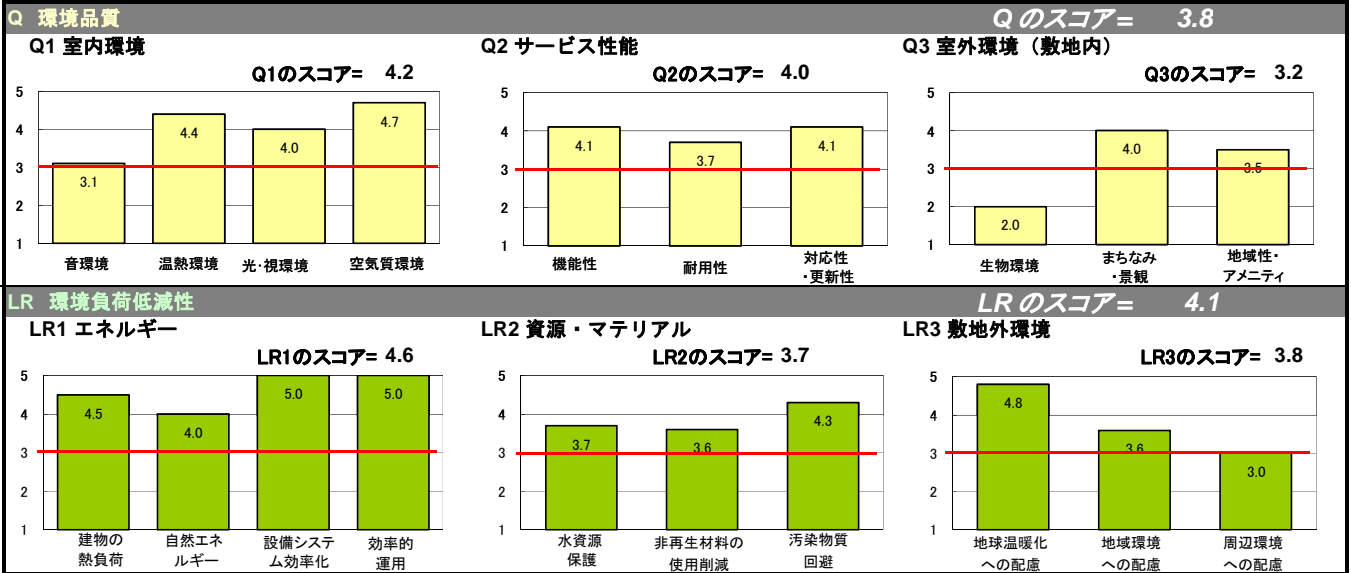
評価結果内訳

■ 使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアル、CASBEE-新築 (簡易版) 2008年版 使用評価ソフト: CASBEE新潟(v.1.1)

2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート) | **2-2 大項目の評価 (レーダーチャート)** | **2-3 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)**



2-4 中項目の評価 (バーチャート)



2-5 設計上の配慮事項

総合	その他	
<p>新社屋の新潟市郊外から中心市街地への回帰にあたり、省CO₂エコタワーとして先導的技術を導入すると共に、社内外に「新潟日報社環境宣言」を発表し、自社の環境対策を一層推進する。さらに、社員の自家用車通勤から公共交通機関への切り替え、地域と共に歩む総合的情報企業としての特質を活かし、入居テナント、「地球の守り人」協賛企業連合、県下を巻き込んだ、省CO₂コミュニティーの創出を図る。</p>		
<p>Q1 室内環境 南面ダブルスキンカーテンウォールの採用、自然通風の活用など空調熱負荷削減を推進した計画とする。</p>	<p>Q2 サービス性能 ゆとりのある階高と高い天井高さ、大きな開口などでの開放感といった特色を提供する。また、施設維持管理にも十分に配慮した施設計画とする。</p>	<p>Q3 室外環境 (敷地内) 屋上緑化、駐車場壁面の緑化等を図り、周辺環境や景観に対して配慮している。</p>
<p>LR1 エネルギー 設備機械排熱の有効利用や自然エネルギー(太陽光、自然通風など)の充分な活用を推進し、エネルギーの見える化を図り施設エネルギー管理を行なう計画とする。また、高度なセンサー技術によるエネルギーの削減を図る計画としている。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル 雨水濾過システムによる雨水の再利用、雨水貯留槽を設置することで、雨水排水の制御をはかっている。また、節水器具を採用している。</p>	<p>LR3 敷地外環境 交通負荷抑制のための適切な量の駐輪場、駐車場の設置を実施している。</p>

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される